

令和6年度

貞光中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①前進タイムや授業での復習を継続的に行い、各教科の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を定着させる
- ②場面に応じて効果的にICTを活用し、生徒が主体的に学びに向かえる学習環境をつくる
- ③学校行事を精選し、日々の授業を大切にする

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 瀬川健治	委員 校長：栗原ひとみ 教頭：中川浩幸
	教務主任・研修主任：藤岡由美子 1学年主任：高崎早知子 2学年主任：大野俊介 3学年主任：三栖秀昭

校長

栗原 ひとみ

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科や「前進」タイムの課題に真面目な取り組み、与えられた課題をきちんとこなそうとする意欲の高い生徒が多い。 ●学級内での学力差が大きく、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない生徒がいる。	①各教科において、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけている。 ②場面に応じて効果的にICTを活用し、生徒が主体的に学びに向かえる学習環境をつくる	①「前進タイム」で国・数・英の反復練習を継続的に実施するとともに、板書やプリントとICTをハイブリッドで積極的に活用し、それぞれの良さを活かした授業を展開する。 ②授業冒頭で必ず本時の目標を示し、効果的な板書や授業終末で振り返りの時間を設定することで、本時の学習の流れを視覚的に認識できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループでの話し合い活動に意欲的に取り組める生徒が多い。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道を立てて説明することが苦手な生徒が多い。	①考えたことや意見を自分の言葉で表現することができる。 ②複数の事柄を繋げて考えたり、他者の意見や考えを元に新たな考え方を身につけたりすることができる。	①話し合いの活動の中で、根拠や理由を明確にして自身の考えを表現できる場面を積極的に設定する。 ②生徒の自己評価や学習の振り返り、授業における成果物の評価やフィードバックを活用し、各自が積極的に授業改善を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、積極的に発表する生徒が多い。また、活動や課題に粘り強く取り組もうとする生徒が多い。 ●家庭学習の習慣が身につけていない生徒や、毎日の課題への取り組みが十分でない生徒がいる。 ●学習に対する自己肯定感が低く、継続的に学習に向かえない生徒が見られる。	①自分に合った学習目標を立て、課題や自主学習に継続して根気強く取り組むことができる。 ②日々の学習に対して、主体的に取り組むことができる。 ③身の周りの様々なことに興味をもち、自ら主体的に学習に向かうことができる。	①家庭学習について教員がフィードバックを行うことで、振り返りをしたり生徒が成長を実感したりできる場面を設定する。 ②「前進タイム」で新聞を読む機会を多く設定し、世の中の流れや社会情勢に興味をもたせると共に、読解力の向上をはかる。 ③タブレットを積極的に活用し、意欲的な学習となるような手法を模索する。 ④自主勉強ノートの学習の様子を全校生徒に広報し、状況の確認と賞賛を毎月行う。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



